

水口出張所

改

第二警察出張所

八幡出張所

改

第三警察出張所

彦根出張所

改

第四警察出張所

長濱出張所

改

第五警察出張所

今津出張所

改

第六警察出張所

三月十四日

○甲第三百三十二號

物産員數帳及ヒ銃炮取調帳共本年一月三十日限各區々長ニ取纏メ區長ヨリ當廳ニ可  
差出旨及布達置候處今以不差出向往々有之右ハ其筋ニ進達方ニ差支不都合ノ至ニ候  
條未差出向ハ來ル廿五日限リ無遲滯屹度可差出此旨相達候事  
右管内各區々長ニ無洩至急布達スル者也

○甲第三百三十六號

三月十五日

今般内務省ヨリ別紙乙第廿號ノ通牛疫豫防處分假條例達相成候付即チ別紙撰舉醫員  
名前書相達候條右條例第一條ノ通無油斷可相心得且別紙乙第二十四號モ農業上緊要

ノ事件ニ付篤ト熟知致シ置緩急不都合無之様可致此旨相達候事  
右管内ニ無洩告諭スル者也

別紙

醫師人名取調書

- 滋賀郡第三區南保町 前川 壽民
- 同郡第九區上大門町 拓植 直政
- 同郡第二區粟津村 菅井 元亮
- 同郡第拾六區南小松村 寺島 利政

- 甲賀郡第四區水口村 朝日 環
- 同郡第二區岩根村 谷口 春齋
- 野洲郡第三區守山村 辻 郁司
- 蒲生郡第六區八幡繩手中町 石田 信興
- 同郡第拾四區鑄物師村 吉岡 秋恒
- 神崎郡第四區位田村 横山 醇一
- 犬上郡第一區連若村 樋口 三郎

坂田郡第拾一區米原村

明石啓藏

淺井郡第八區下野村

脇坂周伯

同郡第九區五村

大村丹家

高島郡第拾區鴨村

万木養伯

別紙

乙第二十號

府縣

傳染牛疫豫防ノ儀去明治四辛未年六月七日太政官公布ノ趣モ有之候處近年内地ニ流  
行シ既ニ明治六年ヨリ七年ニ至ル迄牛疫ニ罹リ斃ルモノ全國四萬貳千餘頭ニ及ヒ  
農業ヲ妨碍シ牧畜ノ進路ヲ遮斷スル等巨害被擧スルニ暇アラヌ元來右傳染牛疫ノ儀

ハ歐洲諸邦ニ於テ屢々流行シ慘毒無量結局難治ノ症ニシテ甚シキハ殆ト一國ノ健牛  
ヲ蕩尽スルコト立至リ候儀モ往々有之候處未タ彼ノ地ニ於テモ治療ノ方法不相立到底  
之レヲ左右スルモ徒費徒勞ニ屬シ還テ人手ヨリ他ニ傳フルノ實害アルニ付速ニ患牛  
ヲ撲殺シ傳染ノ原根ヲ斷チ健牛ヲ豫防スルヲ以テ古今良醫ノ定論トスル處ニ付右牛  
疫ノ徵候有之節ハ斷然牛主共ニ於テ撲殺スルハ當然ノ事ニ候得共一時姑息ノ情ヨリ  
シテ因循時機ヲ失ヒ終ニ疫毒蔓延候テハ不容易儀ニ付特別ノ詮議ヲ以テ賠償撲殺法  
取設候條別紙疫牛處分假條例ニ照準以來各府縣ニ於テ精密其徵候ヲ探偵シ牛疫ノ疑  
アラハ牛價ヲ其主ヘ償與シ速ニ之レヲ撲殺シ疫毒ノ源根ヲ滅却候様取計可申尤照會  
ノ爲メ牛病新書並疫牛容体書下ケ渡候條篇ト照準夫々處分方厚注意尙管内人民ヘモ  
告諭可致此旨相達候事

明治九年二月廿九日

別番

疫牛處分假條例

第一條

一 人民飼立ノ牛疾病アルキハ其牛主ニ於テハ兼テ管轄廳ヨリ告示スル所ノ醫ニ請フ  
テ診察セシメ若シ牛疫ノ徵候アラハ直ニ之レヲ區戸長ニ届出區戸長ヨリハ速ニ其  
旨管轄廳ヘ届出ヘシ

但醫員懸隔ノ地等於テ之ヲ迎フルノ際既ニ牛疫ノ徵候アルキハ直ニ區戸長ニ届  
出ツヘシ

第二條

一 管轄廳於テハ區戸長ヨリノ具狀ニヨリ速ニ官員ヲ派出セシメ検査ノ上疑アルモノ  
ハ病ノ輕重ヲ不問直ニ之ヲ撲殺シ其他ハ專ラ豫防法ヲ行フヘシ

第三條

一 牛疫傳染ノ牛ヲ撲殺スルキハ相當ノ代價ヲ其主ニ下渡スヘシ故ニ所有主ニ於テ之  
ヲ拒ムヘカラス

但牛價ハ其品位ニ依リ相當支給スヘシト雖モ必ス一頭ニ付金三十圓ヲ超ユヘカ  
ラス

第四條

一 牛疫發見セハ直ニ管内ニ布達シ及ヒ勸業寮並接近ノ地方廳ヘモ之ヲ通知スヘシ

第五條

一牛疫發見シタルトハ其場所ヨリ凡方二里以内ノ地ヲ限リ直ニ道筋ニ標札ヲ建テ病牛ハ勿論健牛ト雖モ右限外ニ出ルコトヲ禁シ又他ヨリ限内ニ入ルコトヲ禁スヘシ假令病根全ク滅却ノ後タリトモ尙三ヶ月ヲ經サレハ其出入ヲ斷スヘカラス

但四方十里以内畜牛無之場ヘ往復或ハ移轉スルハ此限ニアラス

第六條

一牛疫起發ノ地ヘハ直ニ巡查ヲ派出シ該病ニ係ル諸般ノ取締ヲ爲サシム可シ

第七條

一牛病新書及ヒ疫牛容體書一府縣ニ付二十部宛下渡スヘキコト付各管内適宜ノ地ニ於テ相當ノ醫生ヲ撰ミ右書類ヲ下渡シ豫メ講習セシメ牛病ノ診斷ヲナサシムヘシ且該醫ノ住所姓名ハ管内ヘ告示ス可シ

第八條

一牛主ヘ償付スル金額ハ同ニ不及豫備金ノ内ヲ以テ速ニ施行シ醫員ノ診斷書及ヒ牛主姓名頭數金額等詳細取調書相添其時々當省ヘ届出ヘシ  
但金員受取方ノ儀ハ三ヶ月分取束ヲ大藏省ヘ申立ヘシ

第九條

一疫病ニ斃シ或ハ撲殺シタル牛ノ遺骸ハ辛未年ノ公布ニ照準シ燒棄スルハ勿論ナリ  
ト雖モ其地方ノ便適ニモリ一丈二尺ノ地下ニ埋没スルモ妨ナシトス  
茲ニ紀元千八百六十五年英國ニ於テ牛疫流行ノ際同國家畜醫ノ中最モ卓越ナル博士シモンズ氏ヲ書セシムル所ノ左ノ説ヲ以テ議員之ヲ公論トセシナリ  
牛大ニ沈鬱シテ活潑ナラズ食ヲ反芻スルヲ止メ頻リニ戰慄シ行步蹣跚タリ寒甚

呼吸促進シテ頭ヲ低レ眼球紅色ヲ潮シテ涕液ヲ流セリ鼻孔ヨリ粘液ヲ生シ内  
唇及上顎ニ於テ生色ナルモノヲ基布シテ且ツ下痢アリ

ポーランド國ノ學士セーマン氏ノ説左ノ如シ

牛ノ食物缺乏反芻ヲ止メ鬱悶シテ口中並ニ小牙ヨリ粘液ヲ生シ且ツ小瘡ヲ發シ  
臭氣ヲ放チテ爾餘眼鼻ヨリ粘液ヲ泄シ次テ臭氣アル下痢ヲ下シ咳嗽シ漸次衰瘦  
シテ偶發シテ頭チ一方ニ屈メテ斃死ス

博士レーヤド氏カ疫病傳染ノ性ニツイテ著ハス所ノ書中ニ述ヘタル左ノ説ハ千七百  
五十七年ニ公告セリ

此傳染疫ノ初徴ハ食欲減少シ頭チ伸シ嚙下スルニ困難耳ニ痒チ覺ニル如ク揺シ  
テ又垂レリ眼暗濁ナリ怠慢ニシテ運動チ好マズ爾後全ク食欲チ絶ス眼鼻ヨリ膿

様ノ液ヲ泄シ常ニ下痢シ上顎及ヒ口槍ニ於テ結膜シ多ク夕時ニ在テ呻吟シテ横  
臥セリ

因テ今茲ニ當牧羊場第一區ノ兩國沖ニ於テ斃牛ノ徵候如何アリシチ陳ス可シ

牛ノ食欲缺乏シ反芻ヲ止メ頭及ヒ耳チ垂レ間歇厥冷戰慄シ下痢ヲ生シ咳嗽シ呼  
吸促進ス眼鼻ヨリ粘液ヲ泄シ初メ眼ヨリ出タル液ハ全ク稀薄ナレモ病長スルニ  
及テ次第ニ稠厚トナリ遂ニ膿狀ニ變セリ

眼球赤色ヲ潮シ鼻孔ヨリ粘液ヲ生シ臭氣ヲ放チ苦臭アル大便チ下ス頻リニ鬱發シ病  
長スルニ及テ呼吸益窘迫セリ病牛ノ内前ニ記載スル學士レーヤド氏カ述ル説ノ如ク  
頭チ伸セシ徵候アルチ注目セリ而シテ專ラ博士シモズ氏カ説ノ如ク行歩踉蹌クリ  
亦咳嗽鬱發スルコポーランド國ノ學士カ説ト同一ク如斯全ク病期ヲ終テ熱ノ下級

ニ在ルヲ徴ス

別紙

乙第廿四號

府 縣

今般傳染牛疫處分條例相達候處尙別紙之通豫防法並斃死後處置相達候條篤ト管内人  
民ニ諭達可致此旨相達候事

明治九年三月七日

內務卿大久保利通

別紙

傳染牛疫豫防法並斃死後處置

一若シ一戸ニ傳染牛疫ノ徵候發顯スルルハ疫牛處分假條例ヲ遵奉シ之ヲ撲殺シテ其  
死体ハ速ニ壹丈貳尺ノ地下ニ埋没スルカ或ハ燒棄スルハ勿論傳染病ニ紛ハシキモ

ノト雖モ直様其由ヲ近隣ニ知ラセ健牛ヲ所持スルモノト互ニ往來出入ス可カラズ  
一戸數頭ノ牛ヲ畜養スルモノハ若シ壹頭ノ牛々疫病ノ徵候アルキハ直ニ健牛ヲ他  
ノ牛類無之地ヘ引移スベシ尤疫牛處分假條例ノ通其場所ヨリ凡方二里以内ノ地ヲ  
限リトス

一地方ニ傳染病發起ノ聞エアレバ一層注意候合ヲ清淨ニシ寐藥ナド度々取替エ濕  
氣ヲ乾カシ空氣ノ流通ヲ能クスルヲ怠ルベカラズ且ツ左ノ藥劑ヲ時々廐内ニ散  
布スベシ

一石炭酸水 石炭酸ニ夕位  
水壹升五合

又ハ 一鹽酸カルキ水 鹽酸カルキ壹合位  
水壹升五合

右ノ藥品ニ乏シキ地ニテハ生石灰ヲ散布スベシ

一飼料ハ和カニシテ消化シ易キ物ヲ與フベシ

但シ燕麥粉ノ得易キ地ニテハ常食ニ與ラルヲ最良トス

一干草ハ鹽水ヲ振り掛ケ潤シ與フベシ

但シ多分ノ青草ヲ與フルハ下痢ヲ醸ス恐アレバ加減スベシ

斃死後處置

一傳染病ト覺敷キ症ニテ斃ルモノアラハ廐舎ノ内外ヲ能ク洗ヒ硫黃一斤ヲ煮シ石

炭酸水ヲ散布シテ臭氣ヲ去ラシムベシ尤モ病牛ノ糞尿其外治療ニ用ヒタル一切ノ

物品ハ深ク土中へ埋ムルカ又ハ硫黃ヲ散布シテ燒キ捨ツベシ

一病牛ヲ取扱ヒタル人ハ衣服ヲ取換へ身體ヲ清淨ニシ一週同ヲ經サレハ健牛ニ近ツ

クベカラズ

一總テ斃牛ヲ取扱ヒタル場所へハ石炭酸水ヲ散布スヘシ  
一傳染病牛斃死ノ廐舎へハ六ヶ月ヲ經サレハ病牛ヲ繋クベカラズ  
○甲第百三十七號  
三月十七日

別紙ノ通御達相成候條爲心得此旨相達候事

右管内エ無洩布達スル者也

別番

第貳拾七號

院省使廳府縣

從前一六日休暇ノ處來ル四月ヨリ日曜日ヲ以テ休暇ト被定候條此旨相達候事

但土曜日ハ正午十二時ヨリ休暇タルヘキ事

明治九年三月十二日

太政大臣三條實美



○甲第百三十九號

三月十七日

○百七十九

當應仕立使ノ者途中發病等ニテ歩行難相成節代夫相雇度旨申入候ハ、速ニ相當ノ人夫差立方可取計右ニ付取扱手續左ノ通可相心得事

一書狀上封ニ至急仕立ノ印押捺有之分ハ其脚夫一時間ニ壹里行ニテ晝夜兼行タルベシ又並仕立ノ印押捺有之分ハ其脚夫一時間ニ三拾町歩行ノ割合ニテ夜行ハ不致成規ニ候事

但至急仕立ノ分ハ必ス書狀壹通ニ付一脚夫可差立成規ニ候得共並仕立ノ分ハ其時ノ都合ニ依リ途中及ヒ其往還筋ヨリ拾町以內入込ノ町村ニ可相達書狀拾通マテハ一脚夫ヲシテ配達可爲致儀モ可有之事

一右賃金定額左ノ通

一 至急仕立ノ分

道程壹里ニ付

晝金三錢五厘

夜金五錢二厘

一 並仕立ノ分

道程壹里ニ付

金貳錢八厘

一 途中配達ノ分

道程ノ遠近ニ不拘壹箇ニ付

金壹錢

○百八十

一 釐目壹貫目以上ノ封物ハ至急並ノ別ナク壹貫目ニ付四錢増  
 但右賃錢ハ總テ其代夫相雇タル脚夫ヨリ直ニ可請取若シ事故アツテ右脚夫ヨリ  
 不相拂節ハ早々當廳へ請取方可申立事  
 一 至急仕立並仕立共届先ニ於テハ其書狀或ハ何々ヲ何月何日午前第何時請取タル旨  
 明記有之請書ヲ必ス取置可申事  
 一 途中川支雪支等ノ節ハ其地元戸長ノ証書乞請早々當廳へ可差出事  
 一 右ノ外届先ニ於テ酒代等乞請候儀ハ勿論途中驛村ヨリ無賃ニテ道案内人足ヲ差出  
 サス等ノ儀一切不相成事  
 前書ノ趣篤シ相心得代夫ノ者へ懇ニ告示可致事  
 右管内各町村正副戸長ハ無洩布達スル者也

〇甲第四百四十號

三月十七日

管下各所ニ於テ屠牛及其肉ヲ請賣營業トスル者並斃牛ヲ取扱候者詮議ノ次第有之ニ  
 付來五月一日ヨリ免許ヲ不受營業ノ儀ハ決テ不相成候條同日以後右營業致度者ハ別  
 紙營業準則ニ倣ヒ嚴重ノ規則相設ケ更ニ可願出詮議ノ上可差許事  
 右管内屠牛營業ノ者及肉類請賣營業ノ者斃牛取扱營業ノ者並區戸長ニ無洩至急布達  
 スル者也

別番

屠牛及肉類賣買營業準則

〇開業ノ手續

第一條

一都テ官令ニ係ル諸達シハ決シテ違フマシキヲ

第二條

一屠牛ノ場所ヲ届出免許ヲ受クヘキヲ

郡村名字並ニ四方ノ間數及ヒ坪數等ノ類

第三條

一精肉販賣所ヲ届ケルヲ

町村名屋敷地番號並ニ持地カ借地カ借地ナレハ地主ノ名共

第四條

一屠牛及ヒ屠牛肉ヲ販賣スルモノ姓名及ヒ履歴ヲ届ケルヲ

第五條

一精牛肉販賣所ハ<sup>免</sup>許屠牛肉販賣所ト<sup>次</sup>書シタル看板ヲ製シ戶外最モ衆人ノ認メ易キ場所ヘ掲ケ置ク

第六條

一精牛肉請賣ノモノハ願出精牛肉仕入鑑札ヲ申受クヘシ又精牛肉受賣所ト<sup>次</sup>書シタル看板ヲ掲ケ置ヘシ

第七條

一前兩條ノ看板ハ縣廳ニテ番號ヲ付シ印章ヲ烙記スルニ付一應縣廳ヘ持參スヘキヲ  
但手數料トシテ看板並鑑札共一枚ニ付金貳拾錢ヲ納ムヘキヲ

〇屠殺手續

第八條

一牛ヲ屠殺セントスル時ハ其節警察出張所へ報告スルヲ

第九條

一前條ノ如ク報告スル時ハ直ニ巡查醫員ヲ召運シ臨場スルニ付篤ト検査ヲ受ケ明証ヲ得タル上ニ無之テハ屠殺ニ着手イタズ間敷キヲ

第十條

一前條ノ場合ニ於テ出張ノ巡查及ヒ醫員其屠殺セントスル牛ヲ疫病ト見認ムルハ直ニ内務省乙第二十號疫牛處分假條例第二條ノ通處分スヘシ牛主ハ其際ニ臨ミ決シテ之レヲ拒ムノ權ナキヲ

但尋常ノ病牛ニテモ其屠殺ヲ止メシメ斃牛取扱ノ者へ付セシムルコアルヘシ

第十一條

一屠殺セントスル牛ハ自牧ノ牛歟買入ノ牛カチ其出張巡查ニ可届出尤買入ノ牛ナシハ其買取リシ人名住所ヲモ可届出事

○肉販賣ノ手續

第十二條

一屠殺シタル牛ノ精肉ヲ賣捌クニハ兼テ縣廳ヨリ精牛肉請賣所へ渡シ置タル仕入鹽札ヲ証トシテ賣渡スヘク若持參セサルモノへハ賣渡スヘカラサルヲ  
但自食ノ爲メ購求スルモノハ此限ニアラサルヲ

第十三條

一牛肉販賣所ニテ他ノ肉類ヲ併セ取扱フモノハ其區別判然立ツルコト尤斃牛肉等ヲ精肉販賣所ニテ取扱フマシキヲ

第十四條

一 精牛肉販賣所へハ臨時巡査出張検査スルヲモアルヘキヲ

○斃牛取扱手續

第十五條

一 疫病等ニ無之尋常ノ斃牛肉ヲ取扱ハントスルモノハ精肉販賣所ニテ不取扱様判然區別ヲ立ツルヲ

第十六條

一 前同斃牛ヲ解カントスルモノハ別ニ斃牛解剖所ヲ設クヘシ其肉ハ市中ニテ取扱フマシク尽ク解剖所ニテ取扱ヒ賣捌方等モ同所ニ於テスヘキヲ  
但看板ハ第五條第六條ノ手續ノ通りニシテ看板ノ書式ハ培養肉解剖並ニ販賣所

ト大書スヘシ番號焼印等ハ成規ノ通りタリト雖モ手数料ハ納ムルニ及ハス

第十七條

一 斃牛ヲ解クモ解剖場所ヲ届ケルヲ及ヒ検査ヲ受クルヲ等第二條第八條第九條ノ通りタルヘク尤出張ノ巡査及ヒ醫員ニテ傳染病アルイハ其他有害ノ質アル死牛ト見認ムルキハ直ニ其解剖ヲ差止メ傳染病牛取扱ノ處分ニ準スヘキヲ

第十八條

一 斃牛肉ヲ解剖シタルキハ検査吏員ノ目前ニ於テ灰或ハ其他ノ物ヲ以混和セシムルカ又ハ煎ル等ノヲヲナシ終ルヘキヲ

○追加

第十九條

一 食料ノ牛ノミニテ斃牛ハ決シテ取扱ハサルモノハ其決シテ取扱ハサル旨ヲ明載ス  
ヘキ

第二十條

一 屠牛場及ヒ解剖場ハ人家遠隔ノ地ニ限ルヘシ

第二十一條

一 右屠牛營業免許ヲ受クルニ於テハ検査料トシテ屠牛一頭ニ付金三十錢ツヽ可差出  
候事

但斃牛モ同様可心得事

第二十二條

一 モシ馬ヲ屠ラント欲ルモノハ別段申出指渾ヲ受クヘシ

右ニ準シ規則可取調候事

明治九年三月十七日

滋賀縣

○甲第四百一十一號

三月十七日

皇上御寫眞販賣ノ儀ハ兼テ不相成候處頃日竊ニ販賣候者有之哉ノ趣相聞以ノ外ノ儀  
ニ付自今右犯禁ノ者見聞候ハヽ相當ノ答可申付候條此旨相達候事  
右管内ニ無洩布達スル者也

○甲第四百四十二號

三月十七日

今般地租改正調査落成ニ付テハ後五ヶ年收穫ノ實益検査ノ儀別紙方法ノ通厚ノ注意  
致シ不都合無之様取調可致此旨相達候事  
右管内ニ無洩至急布達スル者也

別番

今般地租改正ニ付テハ官員派出實地検査ノ上各區長ト協議ヲ尽シ地價釐定候儀ニシテ不平準ハ有之問敷等ニ候得共萬一不公平有之候テハ人民ニ於テ幸不幸ヲ生シ候儀ニ付當明治九年第一月以來正副區長並一區一人宛代議人ヲ會同シ縣下ニ於テ數十日間論究審議セシメ各郡平準地價爲申立其上官廳ノ所見ト照會シ夫レ是比較即今釐定ノ地價相達候尤モ兼テ政府ニ於テモ改正後五ケ年ヲ經テ又ハ調査可致旨御達シ有之候儀ハ元來地價ノ由テ起ル所ハ其地收穫ノ實益ヲ根據トシ起算致シ候成規ニ付確乎タル實益見認不致候テハ不平準ヲ生スヘキ懸念有之然ルニ今般審議ヲ尽シ候上ハ不平準無之筋ニ候得其實地ニ付テ全村實益ノ數量ヲ試験候儀ニ若無之唯各人ノ持目ヲ以相定候儀ニテ到底冥搜摸索ヲ不免モノニシテ突ト其當否ヲ難期候ニ付當明治九年

ヨリ後五ケ年ノ間左ノ方法ニ照準シ坪苜檢見致シ置五ケ年平均ノ實益ヲ正路ニ照調  
 糶季ニ至リ更ニ改正ヲ可受然ルキハ眞ノ地力ニ應ルル賦租ト可相成儀ニ付此段厚シ  
 相心得等閑無之様注意可致候事

第壹條

坪苜試験ノ方法ハ一區内限リ正副區長ト各村正副戸長ノ内一名宛立會甲村坪苜取  
 ハ乙村戸長之ヲ擔當シ乙村坪苜取ハ甲村ノ戸長之ヲ擔當スル等其擔任ヲ互換シ早  
 稻晚稻兩度ニ試験シ隱匿ノ所業無之様注意スヘシ尤自村試験ノ節ハ必正副戸長地主  
 惣代兩三名立會致スヲ要ス

但シ正副區長之ニ立會スルハ其正奸ヲ附釋スル責任アルモノトス

第貳條

收穫試験ニ付テハ一般六尺等歩ノ耨竿ヲ用ヒ従前拾見ノ如ク歩驗致シ干シ減貳割ヲ引去リ殘ル數量ヲ取調置ヘシ

第三條

此試験ヲ爲スニハ一村ノ地位等級幾等アリトモ等級毎ニ上中下ノ作毛ヲ鑑別シ三ヶ所宛坪對シ之ヲ區別シテ實數ヲ得ルヲ要ス

但シ同等ノ地位ニシテ上毛ニ屬スルモノハ勞力ノ多キト肥糞ノ強ニ因ル下毛ニ屬スル者ハ勞力ト肥糞ノ不足スルニ因ル者ナレハ斯ノ如ク上中下ヲ區別スヘシ  
尤地力ノ同等ニテモ耕耘ノ便否ニ因リ勞力ノ多少アルモノナレハ第一等地ノ收穫ト二等三等地ノ收穫ト同數ナルモ勞力ノ多少ニ因テ等級區別ヲ定メタル物ナレハ其收穫ノ數量ニ際ス事アルヘカラス假令實數ハ同等ニテモ地價ニ高低アル

ハ即チ耕耘ノ便否ニ因テ等級ヲ異ニスル所以ト知ルヘシ

第四條

畑地ハ其植物各種アルモノナレハ步驗シテ法ヲ行フ能ハヌ因テ各村協議ノ上簡明ノ方法ヲ設ケ各種ノ收穫金ヲ調査スヘシ小作セシムル者ハ其充米ヲモ記載スヘシ

第五條

收穫試験ノ後一村限リ左ノ雜形ニ照準シ其數量ヲ明記スヘシ

- 第一等地
  - 第何番字何々 上毛 何舛何合何夕
  - 第何番字何々 中毛 何舛何合何夕
  - 第何番字何々 下毛 何舛何合何夕
- 第二等地
  - 第何番字何々 上毛 何舛何合何夕
  - 第何番字何々 中毛 何舛何合何夕
  - 第何番字何々 下毛 何舛何合何夕



第三等地  
 第何番字何々  
 第何番字何々  
 第何番字何々  
 上毛 何姓何合何夕  
 中毛 何姓何合何夕  
 下毛 何姓何合何夕

明治何年早稻方

第一等地  
 第何番字何々  
 第何番字何々  
 第何番字何々  
 上毛 何姓何合何夕  
 中毛 何姓何合何夕  
 下毛 何姓何合何夕

第二等地  
 第何番字何々  
 第何番字何々  
 第何番字何々  
 上毛 何姓何合何夕  
 中毛 何姓何合何夕  
 下毛 何姓何合何夕

第三等地  
 第何番字何々  
 第何番字何々  
 第何番字何々  
 上毛 何姓何合何夕  
 中毛 何姓何合何夕  
 下毛 何姓何合何夕

明治何年晚稻方

右一村ノ等級換等有之候トモ順次如此記スヘシ  
 右ノ通該區正副區長區內各村正副戸長立會試檢候處相違無之候也  
 年號月日  
 何郡第何區何村

地主惣代 何ノ誰印  
 副戸長 何ノ誰印  
 戸長 何ノ誰印  
 何村  
 竿取 戸長 何ノ誰印  
 右區  
 副區長 何ノ誰印  
 區長 何ノ誰印

滋賀縣令苗字名殿

右ノ通達ケ年毎ニ區内各村順次ニ取調紛亂無之様一綴ニ致シ區長手元ニ預リ置進  
テ五ヶ年後布達次第可差出儀ト可相心得事

但シ畑地收獲取調ハ別冊ニ致シ置ヘシ

第七條

各村ニ於テ年々費用ノ肥糞代金惣額ヲ卷末ニ記シ可置尤桑茶其外畑方ニ肥糞相用ヒ  
候分ハ田畑費用ノ代價ヲ仕譯致シ記載スヘシ

第八條

收獲調査ニ付テハ前件ノ通正副區長ニ於テ監督セシメ候成規ニハ候得共其都合ニ因  
テ臨時官員派出検査ニ及候儀モ可有之ニ付其旨モ兼テ相心得可置候事  
右ノ通相達候ニ付テハ年々作毛試験候儀ハ一時煩忙ニ可有之候得共五ヶ年後再應改

正ヲ受ルニ至テ今般ノ如ク手數ヲ勞セヌ一目瞭然ニ地力相顯ノ公平ノ處分ニ可相成  
儀ニ付此旨厚ク可相心得事

○甲第四百四十三號

三月十八日

當縣本年二月甲第七十六號ヲ以テ訴訟用郵紙ノ内六種ノ分其筋ヨリ配達些少ニ付忽チ  
差支候向ハ相當配達相成候迄ノ處右六種ノ分ニ限リ從前ノ通相心得不苦旨相達置候  
處今般相當配達相成各賣捌人ニ拂下置候ニ付來ル四月十五日以後ハ必ス規則ニ照シ  
相當ノ郵紙可相用候事

右管内ニ無洩至急布達スル者也

○甲第四百四十四號

三月十八日

當縣昨八年四月第二百九十五號ヲ以テ及布達置候小學校則中第十五則ニ毎月一六ノ日

ト有之候ヲ毎月日曜日ト改正候條此旨相達候事

右管内ニ無洩布達スル者也

〇甲第四百四十五號

三月十八日

夫レ犬ハ門ヲ守リ賊ヲ警メ人家有用ノ獸畜ニ候得共無主ノ野犬ニ至テハ飢喝ニ迫ル餘リ人家ニ入り食物ヲ盜ミ或ハ狂疾ヲ發シ他ノ人畜ヲ咬傷スル等ノ妨害ヲナスコト往々有之依テ自今無主ノ野犬ハ所在戸長ニテ犬取ノ者雇入レ取除クヘシ就テハ飼犬ト混清候テハ不都合ニ付來ル四月十日マテニ有主ノ犬ハ飼主ノ住所姓名ヲ記シタル木札ヲ付ケ其旨所在警察出張所ニ可届出候若右日限ヲ過キ木札ヲ付ケ置カサル犬見當リ候ハ、假令飼主有之事判然タルモ無容捨可取除候尤有主ノ犬タリト他ノ妨害ヲ爲ストキハ其旨飼主ニ申聞ケ可爲取除候事

但有主ノ犬子ヲ産ミ其儘飼置候者及ヒ己ニ届濟ノ犬死失スル時ハ其都度々々本

文ノ通可届出候事

右管内ニ無洩布達スル者也

〇甲第四百四十六號

三月十八日

傳染牛疫ノ義ニ付テハ己ニ本月當縣甲第三百三十六號ヲ以內務省達書相添及告諭置候處各人民未タ實際ヲ目撃セサルヨリ或ハ尋常平易ノ症ト認メ姑息等閑ニ打過キ遂ニ一般ニ蔓延スル等ノ大害ヲ醸シ候テハ實ニ重大ノ事件ニ付猶又今般勸業寮ヨリ傳染牛疫巨害ノ實況契畧別紙ノ通り達有之候條牛頭畜養ノ者ハ豫テ相心得厚注意可致此旨相達候事

右管内ニ無洩告諭スル者也

傳染牛疫ノ景況

近年内地ニ流行スル傳染牛疫ハ牛病中尤モ驚クヘキ慘毒尤モ懼ルヘキ難治ノ惡症ニシテ一クヒ此ノ病ニ感染スレハ藥効ヲ奏セサル而已ナラス傳染蔓延ノ迅速ナル實ニ寒心スヘシ其傳染タルヤ牛ヨリ牛ニ傳染スルハ素ヨリ論ナシト雖モ此症ニテ死シタル牛ノ皮角骨肉ヨリシ或ハ屍ノ臭氣ヨリシ或ハ患牛ヲ取扱ヒタル人ノ衣服該品ヨリシ或ハ患牛ニ關シタル器具ヨリシ或ハ各種ノ畜類ヨリシ又時トシテハ人間ニ感染ス其蔓延ノ甚シキニ至テハ殆ト全國ノ動物ヲ蕩尽ス若シ此ノ如キ時ハ耕作運搬及ヒ肉食乳飲ヨリ骨角皮爪ニ至ル迄各其用ヲ欠キ其便ヲ失フモノ比々枚擧ニ暇アラス故ニ平素深ク注意セサル可カラズ是ノ故ニ若シ牛疫ノ微萌アレハ直ニ之ヲ撲殺シ其屍体

ハ速ニ壹丈貳尺ノ地下ニ埋没スルカ又ハ燒棄シテ惡疫ノ病骸ヲ滅除スルノ外術ナキハ古今良醫ノ通論ニシテ歐洲諸邦ノ實踐スルノミナラス現ニ當察於テモ屢々實驗スル所ナリ既ニ去ル明治五年開拓使ニ百餘頭ヲ失ヒ同六年二府二十四縣四方貳千貳百九拾七頭ヲ失ヒ同七年房州嶺岡牧ニテ百貳拾餘頭ヲ失ヒ同八年十二月衛生局ニ若干頭ヲ失ヒ其節ヨリ本年一月ニ至リ當察支廳ニ五十六頭ヲ失ヒ同時東京府下ニモ儘此病ニ罹ルモノアリ其後總州牧羊場ニ百數十頭ヲ失ヘリ初メ房州嶺岡牧ニ此病ノ蔓延スルヤ隣村ノ農家橫濱ヨリ壹頭ノ牝牛ヲ購求シ不日ニシテ該牛疫毒ノ徵候ヲ顯ハセリ是ヨリ同國平郡諸村ヲ蕩尽シ遂ニ嶺岡ニ波及ヌ又當察支廳ノ種牛並總州牧羊場ノ農牛此症ニ感スルモ亦皆他ヨリ傳染スルモノニシテ決シテ自ラ發スルニ非サルナリ而シテ百端治療ヲ施セトモ一トシテ藥効ヲ奏スルモノナシ此ノ如キ劇症ヲ實際經驗

セサル者或ハ目シテ尋常ノ病トナス豈懼レサルヘケンヤ下畧

○甲第四百四十七號

三月廿日

警察出張所徽章別紙雛形ノ通改正候條此旨爲心得相達候事

右管内ニ無洩布達スル者也

旗ノ揚掲常平

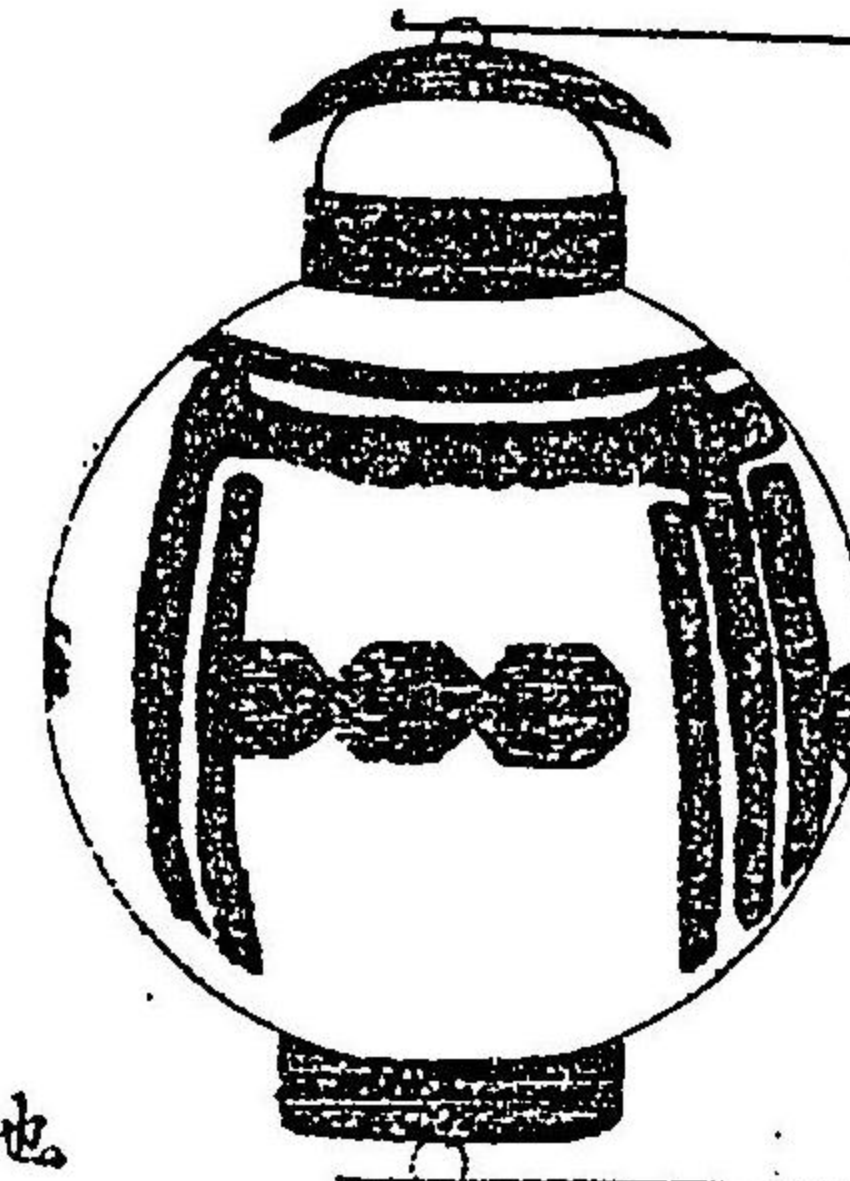
第何警察出張所

六尺

ニ又五寸

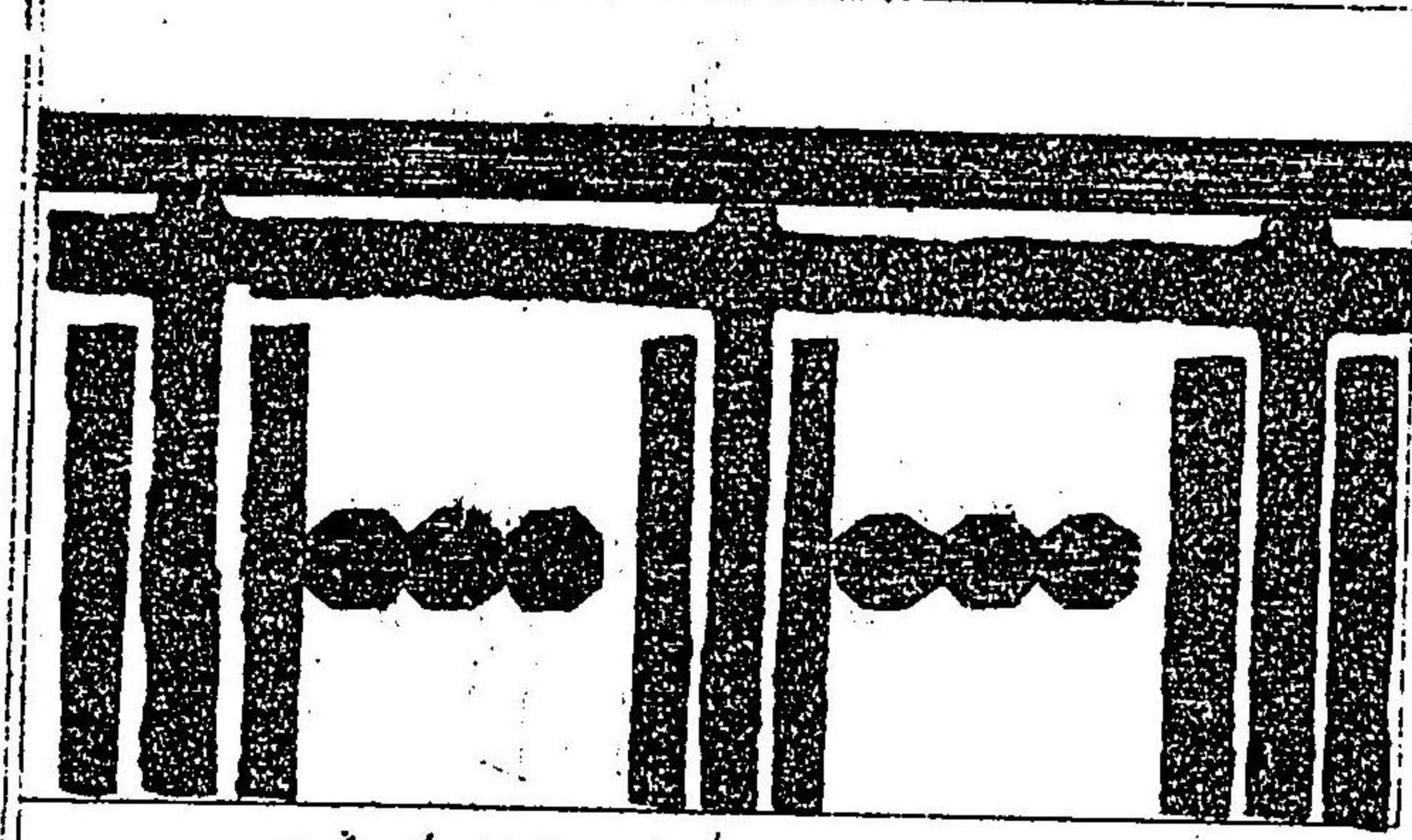
地白木綿

不送書明外年三月甲第百四十八號



非常出火ノ節等  
警察掛官吏出張  
ノ目標

白地ヲリ



壹尺七寸

女五寸六尺

○甲第百四十八號

三月廿日

當縣本年二月甲第七拾號以及布達置候湖川諸船規則改正增補第二條船數及納稅帳同  
第四條船數増減仕譯帳ノ儀四月三十日迄納稅ノ節可差出答ニ候處取調ノ都合有之ニ  
付右二帳面ハ來ル四月十日限リ無違滞可差出事

但船稅金ノ儀ハ四月三十日マテニ可相納事

一右帳面差出候後同月三十日マテニ新造増船ノ分ハ五月一日ニ至リ取纏メ可申出尤  
モ賣買船ハ三月三十一日ヨリ四月三十日マテハ出入不相成候事

右管内船持人並區戶長へ無洩至急布達スル者也

○甲第百五十一號

三月廿三日

諸上納金及諸渡金受渡時限並日限別紙ノ通改定來四月一日ヨリ施行候條不都合無之

様注意可致此旨相達候事

但納金ハ爲替方ニ掛込預リ券ヲ以テ相納メ諸渡金ハ掛屋古望仁兵衛詰所ニ於テ  
可受取右手續ノ儀ハ總テ從前ノ通りタルベシ尤モ諸税金納並ニ臨時至急ノ分ハ  
此限ニ非ス

右管内ニ無洩至急布達スル者也

別帑

納金受付時限

午後第四時退廳ノ日ハ

正午十二時限

正午十二時同

午前第十時限

渡金時限

午後第四時退廳ノ日ハ

午後第二時限

正午十二時同

午前第十一時限

納渡金日限

毎月末兩日ヲ止ム

但土曜日並休暇日ヲ除ノ外

六月十二月ノ儀ハ月末三日ヲ止ム

但前ニ同

右ノ通相定候事

明治九年三月廿三日

滋賀縣

〇甲第百五十二號

三月廿三日

今般各中學區取締頭取別紙ノ通申付候條此旨相達候尤モ身分取扱ノ義ハ官等十三等ニ準シ月給金壹圓五拾錢増給シ此増給ハ當分文部省委托金ヲ以悉皆縣廳ヨリ下渡可申且右頭取役場等ニ關スル諸入費ハ惣テ一中學區内ヨリ支給可致筋ニ候條當縣本年三月甲第百二十五號布達ニ照準シ可取計此旨相達候事  
右管内ニ無洩布達スル者也

但一區ニ貳部ツ、頒布候條全區町村ニ無洩順達可致事

別紙

第九番中學區取締

滋賀郡第四區太間町

加藤嘉左衛門

第九番中學區取締頭取兼務

第十番中學區取締

甲賀郡第十區多羅尾村

多羅尾光弼

第十番中學區取締頭取兼務

第十一番中學區取締

犬上郡第八區勘定人町

外村省吾

第十一番中學區取締頭取兼務

第十二番中學區取締

伊香郡第五區黒田村

東野彌九郎

第十二番中學區取締頭取兼務

〇甲第百五十三號

三月廿四日

別紙ノ通公布相成候條管内ニ無洩布達スル者也

但見本ノ切手下附多數無之頒布行届カザルニ付左ノ各所ニ掲示候條人民其最寄ニ隨ヒ熟覽可致事



大津 水口 八幡 彦根 長濱 今津

右管内ニ無洩布達スル者也

別紙三十二號公布ス

〇甲第百五十五號

三月廿七日

明治元年ヨリ同七年マテ管内各町村適宜ニ雇置候番人選卒ノ人員別紙書式ニ倣ヒ調

査シ一區限リ該區長於テ取束來四月廿日限リ無遅々可差出事

但シ該件ニ限リ正副二通差出ニ不及各町村ヨリ一通宛爲差出區長ヨリ取束可差

出事

右管内ニ無洩布達スル者也

別紙

番人員數取調書

何郡第何區  
何村

從明治元年番人或ハ  
至明治七年選卒人員

一明治元年

幾人

但給料一人ニ付何程

一同二年

同上  
但同上

以下七年ニ至ルマテ此書式ニ倣ヒ記載スベシ

右之通ニ御座候也

某郡第何區何町

戸長

副戸長

何某

何某

年月日

滋賀縣令苗字名殿

〇甲第百五十六號

三月廿八日

本年當縣甲第百四拾貳號ヲ以收穫米調査方法相違候ニ付テハ今般村々ヨリ可差出更  
 正等級表並ニ野帳而收穫地價ノ鈞合ヲ失シ候テハ引直シ方申付候儀ニ可立至然ル時  
 ハ官民共一時二重ノ手數ニシテ忽調査ノ順序ニ差支候而已ナラス今後五ヶ年ノ收穫  
 審査ニ付テモ各村其算出方一途ニ出サル時ハ他日參考ノ際又其不公平ヲ生スルナキ  
 能ハス就テハ今般各郡平准ノ地價相違候ニ付テハ全管上中下米前五ヶ年平均ヲ精査  
 シ石代金四圓八十七錢ヲ根據トシ收穫ヨリ其實益種肥等ヲ酌量シ利子ハ規則六分已  
 内ト雖モ當縣下ノ義ハ其筋ニ伺ノ上六分壹厘八毛ト相定リ候ニ付人民算出ノ仕易キ  
 様別紙算法參考表相違候條今般審査ノ地價ヲ更正シ收穫地價算出利子ノ鈞合ヲ不失

他日ノ參考ニ供スヘキ爲精密ニ取調更正等級表並野帳ニ記載可致此旨相違候事  
 但收穫ハ甲第百四拾貳號布達第三條但書ノ通地ノ便否等ニ據リ其收穫ト實益ノ  
 數量同一轍ニ不出モノニ付本書ノ旨趣ヲ誤解スル取調今後五ヶ年間ノ收穫ニ照  
 應スヘキ爲算法不失樣可致注意事  
 右管内各郡總代正副區戶長ニ無洩布達スル者也

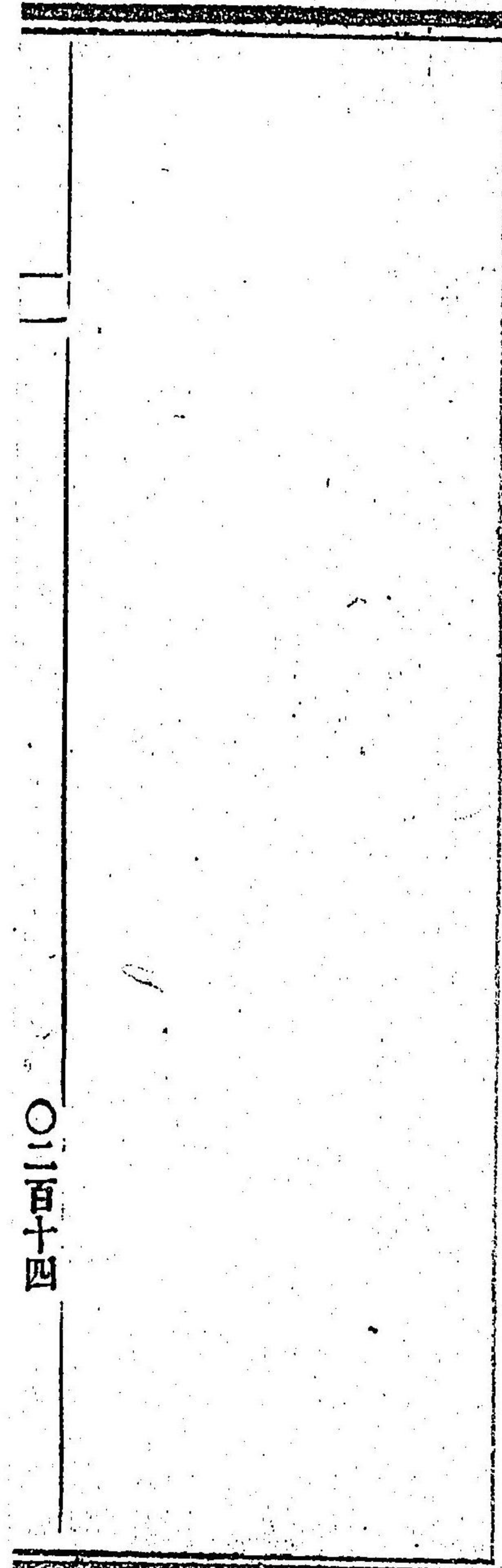
<b>甲 地價算出表</b> <small>イロノ印ヲ以テ甲ニ        變換考スヘシ</small>		<b>乙 地價ヨリ收穫米ヲ算出スル變法</b>	
田反別壹反歩	此收穫米壹石九斗六升七合四夕	田反別壹反歩	此地價金八拾圓 <small>利子六分壹厘八毛ニ四ヲ加ヘ        一〇一八ヲ掛テ左ノ原金ヲ得ル</small>
内米貳斗九升五合壹夕	種肥壹割五分引	此地價金八拾圓	此收穫原金九圓五拾八錢壹厘 <small>利子六分壹厘八毛ニ四ヲ加ヘ        一〇一八ヲ掛テ左ノ原金ヲ得ル</small>
殘米壹石六斗七升貳合夕	石代四圓八拾七錢	此地價金八拾圓	此收穫原金五圓三拾八錢九厘 <small>利子六分壹厘八毛ニ四ヲ加ヘ        一〇一八ヲ掛テ左ノ原金ヲ得ル</small>
此地價金八拾圓	<small>利子六分壹厘八毛ニ四ヲ加ヘ        一〇一八ヲ掛テ左ノ原金ヲ得ル</small>	此地價金四拾五圓	此收穫原金五圓三拾八錢九厘 <small>利子六分壹厘八毛ニ四ヲ加ヘ        一〇一八ヲ掛テ左ノ原金ヲ得ル</small>
又法		又法	
田反別壹反歩	此收穫米壹石壹斗六合六夕	田反別壹反歩	此地價金四拾五圓 <small>利子六分壹厘八毛ニ四ヲ加ヘ        一八ヲ掛テ左ノ原金ヲ得ル</small>
内米壹斗六升六合	種肥壹割五分引	此地價金四拾五圓	此收穫原金五圓三拾八錢九厘 <small>利子六分壹厘八毛ニ四ヲ加ヘ        一〇一八ヲ掛テ左ノ原金ヲ得ル</small>
殘米九斗四升六夕	石代四圓八拾七錢	此地價金四拾五圓	此收穫原金五圓三拾八錢九厘 <small>利子六分壹厘八毛ニ四ヲ加ヘ        一〇一八ヲ掛テ左ノ原金ヲ得ル</small>
此地價金四圓五拾八錢壹厘	<small>利子六分壹厘八毛ニ四ヲ加ヘ        一〇一八ヲ掛テ左ノ原金ヲ得ル</small>	此地價金四拾五圓	此收穫原金五圓三拾八錢九厘 <small>利子六分壹厘八毛ニ四ヲ加ヘ        一〇一八ヲ掛テ左ノ原金ヲ得ル</small>

此代金四圓五拾八錢壹厘  
 利子六分壹厘八毛ニ四ヲ加ヘ  
 一〇一八ヲ掛テ左ノ原金ヲ得ル

本年當縣甲第四百拾貳號ヲ以收穫米調査方法相違候ニ付テハ今般村々ヨリ可差出更  
 正等級表並ニ野帳而收穫地價ノ鈞合ヲ失シ候テハ引直シ方申付候儀ニ可立至然ル時  
 ハ官民共一時二重ノ手數ニシテ忽調査ノ順序ニ差支候而已ナラス今後五ヶ年ノ收穫  
 察查ニ付テモ各村其算出方一途ニ出サル時ハ他日參考ノ際又其不公平ヲ生スルナキ  
 能ハス就テハ今般各郡平准ノ地價相違候ニ付テハ全管上中下米前五ヶ年平均ヲ精査  
 シ石代金四圓八十七錢ヲ根據トシ收穫ヨリ其實益種肥等ヲ酌量シ利子ハ規則六分已  
 内ト雖モ當縣下ノ義ハ其筋ニ伺ノ上六分壹厘八毛ト相定リ候ニ付人民算出ノ仕易キ  
 様別紙算法參考表相違候條今般察查ノ地價ヲ更正シ收穫地價算出利子ノ鈞合ヲ不失

他日ノ參考ニ供スヘキ爲精密ニ取調更正等級表並野帳ニ記載可致此旨相違候事  
 但收穫ハ甲第四百拾貳號布達第三條但書ノ通地ノ便否等ニ據リ其收穫ト實益ノ  
 數量同一轍ニ不出モノニ付本書ノ旨趣ヲ誤解セズ取調今後五ヶ年間ノ收穫ニ照  
 應スヘキ爲算法不失様可致注意事  
 右管内各郡總代正副區戶長ニ無洩布達スル者也

<p>地價算出表</p> <p>イロノ印ヲ以テ甲乙          變考スヘシ</p>		<p>乙地價ヲ收穫米算出スル變法</p>	
田反別壹反歩	此收穫米壹石九斗七合四夕	田反別壹反歩	ハ此地價金八拾圓 <small>利子六分壹厘八毛ニ四ヲ加ヘ          一〇一八ヲ掛ケ左ノ原金ヲ得ル</small>
内米貳斗九升五合壹夕	種肥壹割五分引	口此原金八圓拾四錢四厘	種肥壹割五分ヲ合ス八五ニテ <small>割左ノ收穫原金ヲ得ル</small>
殘米壹石六斗七升貳合夕	石代四圓八拾七錢	此收穫原金九圓五拾八錢壹厘	石代四圓八拾七錢ヲ以 <small>割左ノ收穫米ヲ得ル</small>
口此代金八圓拾四錢四厘	<small>利子六分壹厘八毛ニ四ヲ加ヘ          一〇一八ニテ割左ノ地價ヲ得ル</small>	イ此米壹石九斗六升七合四夕	
ハ此地價金八拾圓			
又法		又法	
田反別壹反歩	此收穫米壹石壹斗六合六夕	田反別壹反歩	此地價金四拾五圓 <small>利子六分壹厘八毛ニ四ヲ加ヘ          一八ヲ掛ケ左ノ原金ヲ得ル</small>
内米壹斗六升六合	種肥壹割五分引	口此原金四圓五拾八錢壹厘	種肥壹割五分ヲ合ス八五ニ <small>テ割左ノ收穫原金ヲ得ル</small>
殘米九斗四升六夕	石代四圓八拾七錢	此收穫原金五圓三拾八錢九厘	石代四圓八拾七錢ヲ以 <small>割左ノ收穫米ヲ得ル</small>
口此代金四圓五拾八錢壹厘	<small>利子六分壹厘八毛ニ四ヲ加ヘ          一〇一八ヲ割左ノ地價ヲ得ル</small>	イ此米壹石壹斗六合六夕	
ハ此地價金四拾五圓			



Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header, including characters like '中', '下', '四', '八', '一', '四', '八'.

Vertical handwritten text on the left side of the main content area, possibly a date or reference number.

Handwritten text in the middle of the page, including characters like '八', '四', '一', '四', '八'.

Vertical text on the left margin, possibly a page number or reference code, including the characters '四', '十', '四', '〇'.

○甲第百五十九號

三月廿八日

清酒其外釀造税ノ内前年相場ノ比例ヲ以兼テ申立ノ造石數ニ應シ凡半方税納ノ儀別紙ノ通相達候條左ノ日割ヲ以テ無遲滯可相納候事

四月廿七日

滋賀郡  
野洲郡

栗太郡  
甲賀郡

四月廿八日

蒲生郡  
愛知郡

神崎郡  
犬上郡

四月廿九日

阪田郡  
伊香郡

淺井郡  
高島郡

右管内酒類釀造人並區戸長ニ無洩至急布達スル者也

別番

釀造税凡半方見込

一清酒造高壹石ニ付

金貳拾八錢

- 一 味淋同 金七拾八錢
  - 一 燒酎同 金四拾四錢
  - 一 白酒同 金六拾四錢
  - 一 銘酒同 金九拾貳錢
  - 一 濁酒同 金拾五錢
- 右ノ通可相心得事

明治九年三月廿八日

滋賀縣

〇甲 第百六十號

三月廿八日

今般本縣廳内ニ第一裁判支廳ヲ設置シ彦根出廳内ニ第二裁判支廳ヲ設置候條此旨相達候事

但開廳期限及ヒ裁判勸解等出願ノ手續ハ追テ可相達候事  
右管内ニ無洩布達スル者也

明治十年六月廿八日御届

明治十年從六月漸次發兌

定價金四十七錢五厘

滋賀縣下滋賀郡第五區  
後在家町九番屋敷住  
滋賀新聞會社中

出版人

古川起端

